

音読

俳句のリズムを感じ取りながら
音読や暗唱をしましょう

年

名前

俳句3（秋をよんだ俳句） 俳句（はいく）とは五・七・五の十七音から成るものです。季節や風情、歌に込めた思いなどを思い浮かべたり、俳句がもつリズムを感じ取ったりしながら読みましょう。

かきく え

かね

ほうりゆうじ

まさおかしき

柿食へば 鐘が鳴るなり 法隆寺 （正岡子規）

法隆寺の茶店（ちやみせ）で休んでいた。名物の柿を食べていると、法隆寺の鐘が静かに鳴り響いてきた。

あさがお

い

かがのちよじよ

朝顔に つるべ取られて もらひ水 （加賀千代女）

朝早く、井戸に水をくみに来てみると、朝顔のつるがつるべ（井戸の水をくむためのおけ）にからんで伸びている。つるを切ってしまうのはかわいそうで、となりの家に水をもらいに行った。

となり

秋深き 隣は何を する人ぞ （松尾芭蕉）

秋も深まってきた。ひっそりとしている隣の人は、私と同じように寂しい思いをしているのだろうか。ひっそりと物音も立たないが、何をしているのだろう。

きりひとは

たかはまきよし

桐一葉 日当たりながら 落ちにけり（高浜虚子）

秋の静けさの中、明るい日当たりのよい場所で、桐（きり）の葉が一枚、日の光を受けながらひらひらと落ちていった。

めいげつ

よ

名月や 池をめぐりて 夜もすがら （松尾芭蕉）

中秋（ちゅうしゅう）の名月の夜、美しい月を映す池の辺りを散歩して、このすばらしい風景を楽しんでいたが、ふと気がつくとき夜通し歩いていたことだ。



読んだ回数 (で 囲む)	
11	1
12	2
13	3
14	4
15	5
16	6
17	7
18	8
19	9
20	10

先生の評価 ()	私の評価 ()	よい姿勢	すらすら読む	俳句の暗唱	意味が言える
-----------	----------	------	--------	-------	--------

とつせみこ

よ

もつしん